

8月29日(木)は、2019年度 第1回学校説明会 若手の採用・育成に挑む事業主の参加も大歓迎！

教育理念と目標、授業の組み立てと内容、学校生活、学費などをわかりやすく紹介

カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

TEL
03-
5950-1771

東京建築カレッジの第25期生（2020年4月入学）募集活動がいよいよ本格的に始まります。他産業との若手人材の獲得競争がますます激しくなっていますが、「建築は面白そうだ」と考える若者は少なくありません。本校が教育実践の中心に位置付ける木造建築は、人と自然へのやさしさから新たな発展が期待されています。夢とロマンあふれる建築の仕事の入り口が建築カレッジです。新規入職者の確保と育成にご活用をお願いします。

東京建築カレッジとは何か。その全容をわかりやすく紹介するのが、学校説明会です。第1回学

校説明会は8月29日（木）、池袋校舎で開催します。

本校は手道具、手刻み



建築スケッチの基礎を学ぶ1年生（第24期生）方法を学び練習すれば誰でも上達します。

による「伝統的な大工技術」の習得を教育の特色として、その成果を競う競技大会が注目されがちですが、法規や設計製図、構造力学、建築ビジネスの事例研究などは幅広いものとなっています。説明会では、職業能力開発促進

第1回 学校説明会

- ◇日時：8月29日（木）
昼の部（午後2時から）、夜の部（午後7時から）
- ◇会場：東京建築カレッジ池袋校舎
豊島区池袋1-8-6
- ◇所要時間：1時間半程度
- ◇持ち物：筆記用具

勤務時間中の社員教育として本校を利用する事業主は条件を満たせば、国から賃金助成を受けることもできます。ただし、不正受給対策を理由に、審査は厳しさを増しています。利用の際の注意事項もお話しします。

「一生つきあえる仲間ができた」、ほとんどの卒業生が口にする、建築カレッジの仲間同士の交流の値打ちもお伝えします。

法の規定で設置されている科目の組み立て、さらに本校の特色である教養科目の内容を説明します。

7月21日、東京都立多摩職業能力開発センター府中校で開催された「全建総連 東京都連 第33回青年技能競技大会」（出場選手数18人）で、本校13期生 柴田輝実さん（建具）が金賞を受賞しました。銀賞は、21期生 高田慎太郎さん（大工）、銅賞は、13期生 赤井立矢さん（大工）、4位入賞は、横山剛士さん（大工）でした。この上位4人が今年9月21～23日に石川県で行われる「全建総連 全国青年技能競技大会」に東京代表として出場します。なお、5位入賞は、20期生の小林貴志さん（大工）、6位入賞は、菅原将太さん（大工）、審査員奨励賞は、23期生〔現2年生〕の関根祥智さん（大工）でした。



競技中の柴田輝実さん。観覧席からは所作の美しさが注目されていました。全国大会で上位入賞が期待されています。

競技課題は「四方転び踏み台」の製作。6時間の競技時間で10分の3勾配の四方転び踏み台の製作精度を競うものです。原寸図の製作・提出、部材の木削り、墨付け、加工仕上げ、組み立て・提出が作業順序となります。

13期 柴田輝実さんが金賞

全国青年技能競技大会 東京予選

真夏の授業は多彩に進行

1年生の授業から



「材料実験」

コンクリートの調合設計も学んだ後に、様々なコンクリートを班ごとに自作。試供体の圧縮強度を実験します

「ものづくり匠の技の祭典」今年も参加

7月25日から三日間、東京・五反田のTOCCで開催された「ものづくり匠の技の祭典」（東京都主催）に、東京建築カレッジは協力しました。本校の実技実習授業の指導員の先生方が、会場内に伝統建築の軸組みを再現、手道具の展示や大工技術の実演も行ないました。

都立墨田工業高校建築科の生徒たちに、大工手道具の魅力を説明する片岡茂樹教務運営委員（7月25日）

教養科目「建築社会論・倫理」では、毎年夏に平和学習を行なっています。今年も昨年引き続き、ジャーナリストの志葉玲さんが特別講師です。海外の戦場取材の経験を動画を見せながら語り、憲法9条の精神を台無しにする自衛隊の海外派兵の危険性を指摘しました。



「建築社会論・倫理」

2年生の授業から

2年生は7月26日の「建築労働論」で、相羽健太郎 相羽建設社長による特別講義を受けました。同社は20期から本校に毎年、社員大工を入学させている事業所。

相羽さんは、自社の歩み、地域密着の工務店の生き残り策について語る一方、大工をはじめとする技能職（職人）について、「60歳以降も上がりました」



「OJT合同報告会」

「新建」実践報告会で卒業生が事例発表 6月30日に開かれた「新建建築家技術者集団東京支部実践報告会」で、東京建築カレッジ卒業生グループによる設計施工事例発表が行われました。冒頭に学校紹介も行ないました。

第一線で働けるので、一般のサラリーマンよりも生涯賃金は多い」と語り、研修生を激励しました。

7月27日は、1、2年生合同のOJT報告会が行われました。各自が日頃の仕事の内容や失敗談を写真で紹介、分散会を含めて大いに盛り上がりました。



「建築労働論」

町の工務店の生き残り策、若手の育成の事例を相羽健太郎 相羽建設社長が報告

